

第47回 生理学技術研究会 参加報告

共通機器部門 情報基盤機器管理班 新開 薫

1. はじめに（目的等）

本研究会は、理工医学系関係大学・共同利用研究機関の技術職員が、日常の業務作業・研究補助等において、従事工程を行う際、合理的・簡素化の方法、成功や失敗例等の報告を含めた事案を発表者・参加者がポスター・一般口演及び奨励研究発表の場を通じて、質疑応答・意見討論を行いながら、業務関係等技術や関連性を持つ技術を含めて、最新動向の情報収集・技術知識習得が目的として参加した。（第36回生物学技術研究会合同開催）

2. 期間・場所

期間：令和7年2月20日（木）～21日（金）

場所：岡崎コンファレンスセンター（愛知県岡崎市明大寺町字伝馬8-1）

3. 参加者等

国立・公私立大学法人等及び大学共同利用機関法人（核融合学・遺伝子学・基礎生物学・生理学・分子科学等研究機構）の技術職員、オンサイト（現地）参加及びオンライン（ZOOM）参加によるハイブリッド開催180名程度

4. 研修内容

1 日目（1階 大隅ホール開催）

- ・研修講演 トランスレーショナル・リサーチにおける実験モデルウサギ（聴講と質疑応答による情報収集）

生理学研究所 動物資源共同利用研究センター センター長 西島 和俊 教授

- ・ポスター口演発表（グループⅠ、Ⅱ）と個別・集団質疑応答及び情報共有意見交換を行う。計35件、。

2 日目（1階 大隅ホール開催）

- ・一般口演発表 質疑応答及び情報共有意見交換を行う。計10件
- ・奨励研究採択課題技術シンポジウム発表 質疑応答及び情報共有意見交換を行う。計5件
- ・所内5施設による施設見学会。

5. まとめと感想

動物植物生物系分野では、動物・植物の飼育・観察栽培経過支援、機器運用保守管理等の人為作業での負担軽減に対する効率と簡素化や思考改良、創意工夫、スキルアップ研修の事案にとっても関心と共感を得られた。情報基盤研究系では、コアファシリティ構築支援プログラムを用いた機器管理システムの構築・0Auth2対応 メールプロキシ・アプリケーション02Popperの開発等が直接・間接的な業務内容に付随しており、活用利用を行える技術案件です。特に印象深いポスター発表は、「組織で働く」ための作法を考える・・・(2) モラルとモラールのお題書きから、発表者は、参加者へ問答対話

しながら、記載作成し、照合し完成する機才な方法を質疑共有しました。モラルとは、人との共栄・共存。モラールは、志気。事例発表は、規格外部下等は、相手に考力や思いやりに欠け、自己中・他責の傾向がある事案です。去年から同様のハイブリッド開催ですが、ポスターボードの閲覧と発表及び一般口演発表は、現地参加限定方式で、参加者・口演者が、直接ディスカッションを行える臨場体感できることに意義がある研究会へ参加できた。円滑運営進行された技術職員の方々へ御礼並びに深く感謝いたします。